

## 町長コラム

### 温故 創新

## ゼロカーボンシティ宣言



庄内町では、令和2年にゼロカーボンシティ宣言をおこなっています。この取り組みは、2015年のパリ協定で「平均気温の上昇を2度未満とする」目標にむけ、2050年までにCO2の排出量を実質ゼロにする事で再生可能エネルギーの普及による循環型の持続可能なまちづくりを進めるものです。

平成5年、旧立川町は悪風と言われた清川ダシを逆手にとって、全国で自治体初の風力発電事業を始めました。30年以上が経過し、残念ながら自治体風車はなくなりましたが、現在、町内では民間事業社5社により14基の風力発電が稼働しています。その中でも令和3年には民間事業者3社が12基の風車を稼働し始めたには年間1200万円の寄付をいただいています。



この12基の風車の発電量は、町全体の消費電力の約3分の2にあたると思われる。また、令和7年4月からはエネルギーの地産地消の観点

からやまがた新電力を通して、本庁舎の使用電力を風力発電による再生エネルギー100%電力に切り替え、CO2ゼロの電力利用としました。

加えて、電気料金についても前年比200万円削減と一石二鳥の効果が表れています。令和8年度からは、本庁舎も併せて公共施設40施設をCO2ゼロの電力に切り替えています。これにより基準年である平成25年比CO2削減50%、電気料金も切り替え前に比べ1200万円安くなる計算となっています。

しかしながら、行政だけの取り組みには限界があります。行政、企業、地域、オール庄内町として取り組みが必要です。風力発電発祥の町、豊かな自然が育んだおいしいお米の町として、そして100年後も夢と希望が持てる元気な町の継続への責任は重大です。豊かで、安全・安心な庄内町をこれからもずっと残すために共に頑張っていきましょう。

庄内町長 富樫 透